

## 令和5年度 第2回中野市環境審議会 会議録

### 1 日時

令和5年9月22日（金）午後1時30分から午後2時33分

### 2 場所

市役所4階 会議室42・43

### 3 出席者

#### 【審議会委員】

高橋直志委員、佐野啓明委員、佐々木真委員、丸山隆久委員、須崎次男委員、小澤美津恵委員、仲條政史委員、関きよ子委員、岩見嘉郎委員、高橋太郎委員、竹内敏子委員、田中美紀夫委員

#### 【事務局（くらしと文化部生活環境課）】

竹前くらしと文化部長、小林生活環境課長、水野生活環境課長補佐、環境係柳沢副主幹

#### 【コンサルタント会社】

株式会社エスプール 職員3名

### 4 傍聴者

1名

### 5 議題

- (1) 市民・事業者意向調査の進捗状況及び結果について
- (2) 基礎調査結果（自然・経済・社会的条件、再エネポテンシャル調査等）について
- (3) 具体的取組案について

議題(1) 市民・事業者意向調査の進捗状況及び結果について

（資料1を使用して、事務局及びコンサルタント会社が説明）

※質問事項なし

議題(2) 基礎調査結果（自然・経済・社会的条件、再エネポテンシャル調査等）について

（資料2を使用して、事務局及びコンサルタント会社が説明）

※質問事項なし

議題(3) 具体的取組案について

（資料3を使用して、事務局及びコンサルタント会社が説明）

田中委員：

2点ほどお願いします。

1点目ですが、環境教育の説明がありましたが具体的にやることは決まっていますか。環境教育について提案があります。

2点目ですが、使用済みきのこ培地バイオガスプロジェクトについて、産業都市構想がたてられていたと思いますが、関連はありますか。発電の実績が挙げられていましたが、この点について教えて頂ければと思います。

事務局（市）：

1点目ですが、環境教育につきましては必ず実施しなければならない決まりはありません。幼少期から教育を行うことで、大人になっても環境を大切にすることに繋がり、より良い中野市になればと感じております。また当市では、自然観察会千曲川ラフティングという事業があります。普段見ることができない川のごみや生き物を見てもらうという体験型の環境教育を行っていますので、今後も環境教育に取り組んでいきたいと考えております。先程、お話がありました環境教育のご提案につきましては、後ほど教えて頂ければと思います。

2点目ですが、市内では1社、事業所でバイオマス発電を行っている会社があります。当市はバイオマス産業都市に選ばれており、バイオマス発電施設の建設等が予定されていましたが、コロナの影響による機材の高騰により、建設が延期になってしまった経過がありました。ですので、現在、バイオマス発電で動いているのは1社になります。

田中委員：

わかりました。環境教育の提案については出前授業です。ラフティングの事業も面白いなと感じましたが、高校生が小学校に行って、小学生に出前授業を行うことはどうかと思っています。市の職員などが淀みなく教養するよりも、高校生が突っかかり間違えながらやる方が受け手の記憶に残ると思います。中野西高校はユネスコハイスクールに認定されていますので、環境問題に関心のある生徒が小学生に教えに行く方が、より子供たちの印象に残ると思います。ユネスコハイスクールに認定されている高校は県下にもあまりなく、北信では3校くらいであるため、是非、高校にお願いして小学校に出張授業を行ってほしいなと思っていますので検討をお願いします。

事務局（市）：

貴重なご意見ありがとうございました。

中野西高校では毎年、クリーンオリエンテーリングというごみ拾い活動を行っ

ていまして、市も高校と繋がりがありますので、今後も学校側と連携を取りながら検討していきたいと思います。

田中委員：

もう1点お願いします。

バイオ炭を使用した色んなプロジェクトが進められており、新聞を見ますと、農家の収入源にするために三菱商事が間に入って稲作に参画するといった記事が掲載されていました。こういうのも併せてやってみたらいかがでしょうか。JAの長野中央会が実証実験を伊那の方でやっていて、結果はまだ出ていませんが、結果が出れば全県的にやるのではないかと思います。その中で、Jクレジットという制度もあり大手企業も関心を持っていますので、脱炭素社会が推進されますし、農家にとっても収入になるため、バイオ炭の研究も検討されてはいかがでしょうか。

事務局（市）：

地域の特性もありますので、色んな意見を聞いていく中で検討していきたいと思います。

仲條委員：

4点ほどお願いします。

1点目ですが、資料2の質疑の際に質問しませんでした但お願いいたします。100年あたり1.3℃気温が上昇しているということですが、1890年から戦後までで約1度上昇、以降はそこまで上昇していないように思えますが、この点について見解をお聞きしたいです。

2点目ですが、太陽光パネルの使用期間の寿命とその後の処分についてどのように考えていますか。処分の際にCO<sub>2</sub>が出ていれば元も子もないのではないかと思います。

3点目ですが、石油から出来ているものはプラスチック以外にアスファルトや重油、軽油等もありますので、そのあたりも一緒に考えていかなければいけないのではないのでしょうか。

4点目ですが、EV車を製造する際にCO<sub>2</sub>が排出されると思います。充電施設もそうですが、どのように考えていますか。

事務局（市）：

1点目ですが、CO<sub>2</sub>が出始めたのは産業革命以降でありますので、近年だけではなく前々から上昇傾向にあったと思われます。2点目ですが、太陽光パネルの寿

命はメーカーの話では約15年となっています。程度のいいものは中古で使うこともあり、寿命を延ばしています。処分の方法は国の方でまだ明確に示されていません。国も処分方法について検討しているところですので様子を見ていきたいと思えます。3点目ですが、石油を使うことが悪いと言っているわけではなく、もちろん必要なものであり、無くては生活が成り立たないものだと思います。1番は地域でお金が回ることが大事ですので、石油石炭の電気を使っていると、燃料を買ったお金として海外に出てしまいます。太陽光などで地域の中の業者にお願いすれば地域で循環されますので、国はそれを推奨しているものであります。

4点目ですが、市で設置した充電施設は「道の駅ふるさと豊田」、「信州観光中野観光センター」の2つあり、ほかにも自動車会社やホテルなどにも設置されています。利用状況は多い月でも1日3回から4回という状況であります。

副会長：

具体的な取組案のなかで太陽光の話が出てきています。きのこの栽培施設など、大きな建物が市内の南方にあり太陽光の発電に適した地域にあります。電気を売るのではなく自分で使うことによって節電や遮熱効果等も出てくると思われます。メリットはありますが、導入コストが高いため、具体的な提示をいただくと嬉しいと感じています。農協も県外のバイオマス発電事業を視察しながら現在検討しているところでもあります。バイオマス発電を行っても、そこからまた品物が出てきますので、発電所を作るうえでの大きな問題となっています。バイオマスタウン構想が止まっているので、市も積極的な関わりを持っていただくとありがたいと考えています。使用済み培地は市内に大きくありますので、有効活用できれば宝の山になると思えます。

事務局（市）：

PPA制度の発電事業者が屋根を貸して、事業者が屋根に太陽光発電装置をつけて、事業者から電気を買うと再エネ分の加算分が必要ないと、それだけでも安くなるということもあります。リースも15年と聞いていますので、15年経ったら自分のものになり、維持管理を自分でやることとなりますが、そういった制度も出来てきていますので周知を徹底していきたいと考えております。

田中委員：

資料2のP18の中小水力発電の導入ポテンシャルについてですが、農業用水路のポテンシャルが0になっている理由を教えてください。

事務局（株式会社エスプール）：

環境省の再生可能エネルギー情報提供システムを利用して推計を出していますが、一定の基準から省かれているとポテンシャルがないということになっています。実際に調査してみれば、ポテンシャルのある可能性があります。

田中委員：

実際、ポテンシャルはあると思います。ちょっとした落差があればあると思われる。ただ水利権があるから手が出せないの、水利権の権利者に交渉してやってみてはいかがでしょうか。小水力ができるのは農業用水路だと思います。河川は洪水などがあり管理できないと思います。

会長：

一つのヒントとしてお聞きいただければと思う。

事務局（市）：

貴重なご意見ありがとうございます。協力いただけるように検討していきたいと思えます。すぐにはいかないかもしれませんが、可能性の1つとして検討していきたいと思えます。

## 6 その他について

事務局：

第3回環境審議会が11月29日(水)午後1時30分から開催を予定しています。

第3回環境審議会では、計画案の詳細案を議題として考えておりますので、ご出席をお願いします。

※質疑等なし